

# 小学校一年生の学校生活 (四)

香川英雄



前回まで三回にわたって、教師の立場や学校の立場から一年生の学校生活をみてきた。今回は、子どもの書いたものや、話を通して、いったい子どもたちはどう思っているのか、子どもの立場に立って子どもの考えや気持ちをくみとりながら、つぎの内容についてまとめていくことにする。

- 一、一年生の遊びのようす
- 二、一年生の学習のようす
- 三、おはなしや読みものへの興味
- 四、幼稚園と小学校についての気持ち

## 一、一年生の遊びのようす

運動場のせまい、しかも千六百人もの都会の学校の一年生たちは、外遊びとしてつぎのような遊びをしている。(多い順に列記)

おとこの子	おんなの子
ボールなげ(天下とり)	てつぼう
怪獣ごっこ	ゴムとび
ウルトラマンごっこ	なわとび
かけっこ	うんてい
てつぼう	ボールあそび
おにごっこ	たかおに
おとうさんごっこ	おにごっこ
なわとび	すなあそび

子どもたちの叫びである。

教師が学習の準備として休憩時間と考えている五分休みや十五分休みも、子どもたちにすれば、うれしい遊び時間というのが現状である。そして遊び時間がもっとほしい、みじかすぎるといのが

○あめがふるとつまらない。むねがどきどきしてあめがやむのをまちます。はれてそとあそびになるとうれしくてかけつていきます。そしてだいすきななわとびをします。するとす

ぐおはじまりです。あそぶじかんがみじかいのでつまりませ  
ん。(えりこ)

○わたしはてつぼうがすきで、おやすみじかんにいつもて  
つぼうをします。くうちゅうさかあがりや、あしかけまわり  
のおつづけやいろいろなのをします。うしろまわりもやりま  
す。(くんにこ)

○ぼくはうるどらまんごっこがおもしろい。なぐりあいとす  
もうのあいのこみたいで、いちばんすきなあそびでとてもお  
もしろいからきょうもしました。(あきひこ)

○ぼくはかいじゅうごっこをするのが大すきです。うちへか  
えってもかいじゅうごっこばかりしています。ときどきあき  
ておにごっこをしてもすぐかいじゅうごっこをはじめます。

(よしまさ)

○ぼくはこのごろがっこうでまいにちてんかとりをするよう  
になりました。もりたくんはつよくていつもまけます。でも  
おぐらくんとはおなじぐらいいです。ともだちとあそぶのがお  
もしろいです。(ひろし)

## 二、一年生の学習のようす

私の組の子どもたちは時間表にくまれている学習に対して、つ  
ぎのような反応を示している。

### ●すきな学科の順位

おとこの子		おんなの子	
① 図画工作	② 算数	① 図画工作	③ 算数
② 算数	③ 理科	② 算数	④ 理科
③ 理科	④ 国語	③ 算数	⑤ 国語
④ 国語	⑤ 道徳	④ 算数	⑥ 道徳
⑤ 道徳	⑥ 音楽	⑤ 算数	⑦ 音楽
⑥ 音楽	⑦ 社会	⑥ 算数	⑧ 社会
⑦ 社会	⑧ 学級会	⑦ 算数	⑨ 学級会
⑧ 学級会	⑨ 学級会	⑧ 算数	⑩ 学級会
⑨ 学級会		⑨ 算数	

○じるしは、男女に共通してよろ

こばれている学科である。この中  
でも、とくに図工はとびぬけて  
「すきだ」といっている。

その理由として

●作るのがおもしろくてすき

●絵をかくのがおもしろい

( ) じるしは、おっくうがられてい  
るものである。

社会や学級会がきらわれている理

由には

●相談するのがややこしくてめんどう。

●話しあうとき、あまりいい考えがでない。

音楽が男女に共通して下位に近いのは、ふだんのようなすや感じか  
らみて意外である。

階名唱やサカホン・楽器などをまちがえやすいということがおも  
な理由であった。

○わたしは、たいいくがいちばんすきです。それはたいいく  
はあそびみたいなのばんきょうだからです。そのあそびみたい  
なばんきょうみたいなのをおぼえて、うちであそぶこともあ  
ります。でもうんどうかいはありません。

れはわたしはあまりはやくないからです。でもおゆうぎなどはすきです。それはひとのおゆうぎをみててもきれいなので、わたしたちがやってもきれいだとおもうからです。(まゆみ)

○ぼくはべんきょうのなかでは、ずこうがいちばんだいすきです。ぼくはまいにち、えやどうぶつえんづくりがだいすきです。ずこうのなかでは、ねんどがいちばんだいすきです。ぼくはままにたのんで、ずこうのどうぐをかってもらおうとかがええました。がっこうでも、うちでもやれるようにしたいとおもいます。(のりみつ)

「すきな学科の順位」にみられるように、自分の力を自由に表現したり、表現できる学科として「図工」が圧倒的に男女を通してすかれていることにおどろき、また、うなずかされるものがある。そこには人間本来の欲求としての想像的な創造性や、思考性が一年生なりに自由に駆使され表現できるからである。

体育についても活動的な子どもの特性からも、また身体的なよろこびをそのまま感じとることからいって、男女全体を通じてよろこばれるわけである。

音楽も歌うことのすきな子どもの特性からいって、身体表現をしながら歌ったり合奏することはよろこばれている。この順位では、下位に近い表示になっているが、きいたときのその週の学科

の内容や条件に左右される一年生ではこういうことがおこりがちである。だから、総体的には「すきな学科」は、図工・体育・音楽が男女を通して一致しており、「きらいな学科」は、社会・学級会であるといえよう。

そして、ちょっとしたきっかけである学科がすきになったり、その学科への考えが変容していく時期である。

○このまえのこくごのじかに、おはなしの本をよみました。おはなしの本をよむじかがこくごのじかにできた。それで、こくごもたくさんすきになった。(よしまさ)

○いろんなべんきょうがすきです。しずかにべんきょうしたほうがすきです。どうしてこくごがすきか、おしえてあげます。本をよむのがすきだからです。(かこ)

○わたしは、こくごがすきです。こくごはおはなしがはいているからすきです。それに、かんじやかたかなや、ひらがながあるからすきです。(かおる)

このように、一年生の興味とか心身の発達段階をよく見きわめて、学習の中で生かして指導の中でとり入れていくことが必要である。どの学科でも、作業学習とかごっこ遊びを織りこんですめていくことによって、興味や意欲をもちあげて効果をあげていく。

前述したように、一般的に敬遠されている「学級会」や「社会科」でも、ごっこ遊びや作業学習などの学習形態や内容はよろこばれている。とくに学級会の中で誕生会や、級内スポーツ会などの集会活動や、具体的な活動をともなう係活動は意欲的で、もっともよろこばれている分野である。学級会がきらわれているのは「話し合い活動」の分野である。聞くこと、話すことの基本的な約束や仕方が身につけていないし、まだ対一や教師と自分のかわりしか理解しにくい一年生では、自分対大勢の「話し合い活動」が困難で、きらわれるのは無理のないことである。

また、社会科がごっこ遊びの形ではすかれていても「ややこしい」「わからない」と総合的にきらわれるのは当然のことではないだろうか。社会のしくみや社会認識の理解は、一年生では、現実生活の中ではむしろくみとりにくいもので、教材となりうる文、すなわち読み物や絵を通してこそ成り立つのだと思う。

そういう意味で「低学年社会科・理科不要論」が問題になるし、国語の中できちんと読みとる指導時間をふやすことが叫ばれている。

### 三、おはなしや読みものへの興味

お話の世界や想像の世界のおもしろさを求めてやまないのは園児と同様で、加えて読む力が増してくるのでなおさらである。

毎日、始業前の話し合いの十分を私はとくべつに本を読むことにしている。

◎本がおもしろいという一年生

○ぼくは先生に「いやいやえんをよんでもらったとき、おもしろくておもしろくてなきだしそうになりました。(けん)

○本をよんでもらうと、おもしろくていいきもちです。すうつとしてすぐおもしろい。いいきもちでぐうんとおもしろいかんじです。がむをたべたみたいにいいかんじで、先生によんでもらうと、ぼくもよみたくなる。(よしまき)

○先生によんでもらうときれないなきもちがします。ゆめをみるみたいです。さいみんじつをかけてあるいてるみたいです。先生は、おもしろくよんでるみたいです。先生のよみかたはうまいです。よるねてるみたいです。(かこ)

○先生によんでもらうと、すうつとしていいきもちでねむくなって、ねむりそうになるときもあります。なんだかおしろいについておいしいごはんをたべて、ねむりようなかんじがします。(あきひこ)

○ぼくはきもちがいっぱいになってぼくはおながはれつしそうになりました。ぼくは、おもしろくておもしろくてほったがおちそうになります。(つよし)

◎読み方がうまいと、なおおもしろいという

○先生にまいあき本をよんでももらいます。そのときおばあさんはおばあさんのこえ、ほかにいろいろなこえがでます。そのとき、いきもちやこわいきもちがします。ぼくは「えるまーとりゅう」がすきです。そのときごりらのほんどのこえみたいです。わにもほんどにわにがいるみたいでした。そして、こわいのはこわいの、こわくないのは、こわくないのとわかれています。そしていきもちです。(のりみつ)

○先生のこえはおもしろいこえと、いいこえがあるから本もおもしろくてたまりません。(えみこ)

◎あたまがよくなった、げんきがでたという

○ぼくは先生によんでもらうと、いちがつきよりちよつとあたまがほんどにちよつとよくなったみたいでたまりません。ぼくがいちがつきにできないのができた。(ひでお)

○まいあき先生に本をよんでもらっていると、とてもいいきもちで、げんきがでるようなきがします。(ひろし)

◎本のつづきがたのしみだという

○先生によんでもらった本の中で一ばんおもしろかったのは「えるまーのぼうけん」です。そのつきにおもしろかったのは「いやいやえん」でした。そのつきは「つくえのうえのう

んどうかい」です。まいにち本のつづきがたのしみです。つぎの日になるとまた本のつづきがたのしみです。(とよふみ)

○本をよんでもらうときはうれいしです。けど、おわりもうれいしです。そのわけはあしたよんでもらうのがたのしみだからです。(あきら)

◎くりかえしききたい、よみたいという

○「えるまーのぼうけん」「いやいやえん」「イソップものがたり」はやりなおしをしてもらいたいとおもいます。(たかよし)

○先生にまいにち本をよんでもらうたら、ぼくはこころの中でえるまーの本をよんでいるみたいだとおもって本をよんでいるかんじがしました。そしてうちではままによんでもらうたら、またいいきもちになって、ぼくはもつとよんでとままにいいました。それからぼくは、じぶんでよみました。ままはうまいといいました。(ともあき)

このように、子どもたちは先生や親に読んでもらったり、お話をきくことをねがっている。興味や関心を学習指導の中で、また学校生活の中で大いに満たしてやりたい。それはただ、子どもの興味に迎合するということなく、私なりに現場教育の一実践者としてつぎのような理由によるのである。

現在の小学校教育の流れが「きく・話す」に主流が置かれてい

る傾向が見られ、一年生も入学以来、約二か月ほどは「読む・書く」指導はなされず「聞く・話す」に終わっている。教科書の編成もそうなっていて、ほとんど絵とわずかの単語で学習するようになっていいる。生活経験の話しあいを中心に行っているわけであるが、いわゆる「おだべり」になって内容的な深まりや質的な高まりもない。そんな国語の時間は無駄でもったいないばかりか、子どもの頭をへんに空虚なものにしてしまい口先だけの子どもづくりになってしまう。そうではなく「聞く・話す」の内容として先人がうみだしきつがれた文化遺産を、しっかり「読みきかせる」中で、子どもたちの血となり肉となる基礎的な内容を身につけさせなければならぬと思う。すぐれた遺産を先生が親が声をだして読みきかせる中で、はじめて「話す・聞く」ことの中身が子どもの中に育っていくのである。その上に「読むこと・書くこと」が開花していくのだと思う。「読みきかせ」から子どもみずから「読む」力をうみだし、「おだべり」よりも、文字を読み、表現する「書くこと」の指導をこそ、どんどんすすめるべきである。

そういう意味で、子どもの興味と合致する「読み聞かせ」は幼児や一年生にぜひとも必要だといふのである。

朝の十分間の話し合いの時間で、伝達やお説教を「聞かせ」、こどもの生活経験を「話させる」ことも大事なこともあるが、すば

らしい先人の作品を「読みきかせる」ことによって、毎朝つづける中で、はるかに「聞く・話す・読む・書く」力が子どもたちに実っていることは、前述の子どもたちの文の中にも立証されていることである。

「読む」指導と「書く」指導を「聞く・話す」指導よりも、もっときちんと身につけさせたいということである。だから「読み方教育」になっている低学年社会科や理科はやめて、国語科の中で基礎的指導をすすめるべきではないかという論に私も賛成するわけである。

ものごとの本質をおおいかくしている、日常生活の現象を、ただ、追いかけてまわさせても子どもには、それをみきわめる力はない。文化遺産を読みとりくみとる積み上げの中で、それをみわける力がついていくのである。

#### 四 幼稚園と小学校についての気持ち

小学校に入学以来、八か月の学校生活を過してきた子どもたちは、つぎのようにいっている。

★ようちえんについての気持ち

○ようちえんではおえかきやいろぬりがおもしろいです。おひるごはんだってだいすきです。(たかよし)

○ぼくはようちえんでは、すなばどうばんやりーだーなどがすきでした。すべりだいや、すなばもすきでした。(ひでお)

○わたしはようちえんのほうがすきです。だってがっこうはなんじかんもなんじかんもべんきょうするから、ようちえんのほうがおもしろい。それにいろいろなあそびがあるから。(のりこ)

○ようちえんはおべんとうだからおいしいです。ようちえんのたのしかったのは、あそぶことです。大きいつみきやじぶんのかってにあそぶことです。(ちひろ)

★小学校についての気持ち

○ぼくはやっばりががっこうのほうがおもしろいとおもいます。がっこうのほうが、おともだちがいっぱいいるからです

(ひろし)

○がっこうでもっともすきなことは、かかりをちゃんとしてもらっているからです。(ちひろ)

○がっこうでは、月よう日の二十ぶんやすみ、テストやおこたえがだいすきです。りかあぶりだしも、テレビだっておもしろいです。(たかよし)

○わたしはようちえんより、がっこうのほうがおもしろい。おもしろいところは、べんきょうじかんです。ようちえんのおもしろいところは、おいのりや、きびしいし、それににんずうがすくないし、木のまわりにはいってはいけないし、本が

つまらない本ばかりなんです。(たか子)

ともかく、遊びたいこと、自由にしたい気持ちや幼稚園や小学校を通じて表明されている。それは幼児の特性としての本来的な、活動的な健康的なものである。

そして、未知なものへの「知りたい」ねがいをむきだしにして、一步一步前進していく姿もみられる。

小学校生活とくらべて、幼稚園ではもっと自由に遊べた楽しさに気づき、学校でもっと自由な遊び時間がほしいとねがいがながら、学ぶことの楽しさも求めはじめている。

しかもなお、おともだちが多いことをよろこんで個人のたのしさよりも集団としての楽しさという社会性の芽がふくらんでいる。

○わたしは、がっこうのほうがいいです。でもようちえんもいいところもあります。ようちえんのおやすみじかながいから、そういうところはようちえんのほうがすきです。でも、がっこうのほうがすきなところもあります。がっこうは、ずこうやそういうときにむずかしいのをやらせてくれるからすきです。きゅうしょくは、ようちえんにはありません。おべんとうはおいしかった。がっこうのきゅうしょくはみるくがだいきらいです。(ゆみ)

(港区立白金小学校)